

○計画期間：平成３１年４月～令和６年３月

I. 中心市街地全体に係る評価

１. 令和５年度終了時点（令和６年３月３１日時点）の中心市街地の概況

十和田市中心市街地活性化基本計画では、「アートの感動を共有し、賑わいと暮らしが共鳴する街とわだ」を基本理念に掲げ、「芸術・歴史・文化を活かした、魅力的な市街地の形成」、「歩いて暮らせる安心・快適な生活環境と、利便性の高い市街地の形成」の２つを活性化の方針に定め、中心市街地の活性化に資する各種事業を実施してきた。

特に令和４年度は、志道館が開館し、交通拠点（新名称：まちなか交通広場）のバスの乗り入れが供用開始されたことにより、市街地循環バス運行事業における、バスやタクシーなどの公共交通ネットワーク拠点となっている。加えて、地域交流センターも令和４年９月から開館し、中心市街地のシンボリックな存在として賑わい創出に寄与した。

一方で、令和元年度末から新型コロナウイルス感染症の影響で、来訪者の減少やイベントの自粛により、中心市街地をはじめ市内全域の賑わいが失われ、空き地も増加したほか、物価高騰などの影響もあり、計画に掲げた数値目標の「歩行者・自転車通行量」、「社会増減数」、「空き地・空き店舗数」の全項目において、目標値を下回る結果となった。

社会増減数については、転入者の新たな受け皿となる居住地の確保が課題であると考えられるため、居住人口の増加に資する市営住宅整備事業が完了後には活性に寄与していくものと考えられる。

現在は、新型コロナウイルス感染症が収束に向かい社会活動が活発化してきており、引き続き創業支援等空き店舗等活用事業や地域交流センターの利用促進に取り組み、今後も芸術・歴史・文化を活かした魅力的な市街地の形成を目指して、中心市街地の賑わいの創出や魅力向上を図る必要がある。

【**中心市街地の状況に関する基礎的なデータ**】

(1) 居住人口 (基準日: 毎年度3月31日)

(単位: 人)

(中心市街地 区域)	平成30年度 (計画前年度)	令和元年度 (1年目)	令和2年度 (2年目)	令和3年度 (3年目)	令和4年度 (4年目)	令和5年度 (5年目)
人口	1,526	1,499	1,438	1,389	1,383	1,342
人口増減数		▲27	▲61	▲49	▲6	▲41
自然増減数		▲28	▲19	▲26	▲23	▲20
社会増減数		1	▲42	▲23	17	▲21
転入者数		65	38	48	61	58

※人口動態データからは十和田市内における区域内外への転居(転入・転出)が把握できないため、全体増減数から自然増減数を差し引いたものを社会増減数として取り扱う。

(2) 地価 (基準日: 毎年度1月1日)

(単位: 円/㎡)

	平成30年度 (計画前年度)	令和元年度 (1年目)	令和2年度 (2年目)	令和3年度 (3年目)	令和4年度 (4年目)	令和5年度 (5年目)
住宅地平均価格 (市内9地点)	12,300	12,300	12,300	12,200	12,200	12,200
中心市街地住宅地 (東三番町30-6)	17,400	17,400	17,400	17,400	17,400	17,400
商業地平均価格 (市内5地点)	16,900	16,900	16,800	16,700	16,500	16,500
中心市街地商業地 (東三番町3-3)	26,800	26,800	26,800	26,600	26,400	26,400
中心市街地商業地 (稲生町19-9)	27,200	27,200	27,200	27,000	26,800	26,800

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【**進捗・完了状況**】

①概ね予定通り進捗・完了した

②予定通り進捗・完了しなかった

【**活性化状況**】

①活性化した

②若干活性化した

③計画策定時と変化なし

④計画策定時より悪化

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

計画していた事業のうち、交通拠点整備事業や地域交流センター等が整備され、市を主体とするハード事業については、概ね完了することができた。

一方で、事業化に至らなかった事業は、いずれも民間事業者を主体とするハード整備事業やソフト事業となっており、新型コロナウイルス感染症の影響や物価高騰による影響が考えられる。

歩行者・自転車通行量については、令和3年度 3,309 人/日で、基準値の 71.1%に落ち込み、令和4年度は 4,039 人/日で、基準値の 86.8%と前年度より改善したものの令和5年度は、3,475 人/日で基準値の 74.7%となり、計画期間全体を見ると下降傾向になった。

また、居住人口や空き地・空き店舗等についても中心市街地を取り巻く環境は、依然として厳しい状況となっている。

これらは、令和元年末からの新型コロナウイルス感染症が要因として上げられるが、創業支援等空き店舗等活用事業等の取組を着実に実施したことで、新規創業者もでてきており、負の影響を最小限に抑えることができたと考える。

例えば、空き地・空き店舗数は、基準値より悪化する結果となったが、創業支援空き店舗等活用事業等の実績値は目標値 10 件を上回る 16 件となり目標を達成する事ができた。

また、まちなか交通広場の整備により、バス・タクシーの結節点が整備されたことや、地域交流センターが供用開始されたことにより、街に新たな魅力が創出され、市内外から多くの来訪者が来ることが可能となった。

実際、歩行者・自転車通行量調査では、施設を整備した調査地点の⑨⑩や⑬などの地点では従前値より歩行者交通量が増加しており、計画当初年度より上回っている。

また、社会増減数については、少子高齢化による自然減や社会減の影響が大きく、居住人口は減少した。

こうした状況から空き地・空き店舗数の増加がみられ、居住人口が減少しており、民間による事業が進まず目標数値に届いていない状況から計画策定時と変化なしと考える。

今後もイベント開催など中心市街地活性化に向け、継続した賑わいの創出や活性化への取組が重要になる。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

【詳細を記載】

平成 31 年から 5 年間の計画で事業計画が終了した。

当協議会において、本計画に位置付けられた各種事業について協議・調整しながら、中心市街活性化を推進し、主要事業である「交通拠点整備事業」「地域交流センター整備

事業」「志道館整備事業」等を実施してきた。

しかしながら、高次・複合都市施設整備事業については、事業実施に至らず、これまで中心市街地活性化に取り組み計画に掲げた3つの目標、「歩行者・自転車通行量」「社会増減数」「空き地・空き店舗数」について、基準値に及ばない結果となった。

その要因として、令和元年末からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、イベントの開催自粛や、来訪者の減少、市民の外出機会の減少などがあり、空き店舗の急激な増加など商業分野で大きな影響を受けた。

新型コロナウイルス感染症の位置づけも変わり各種イベントが通常開催となり社会活動が活発化し、賑わいを取り戻してきていることから、引き続き創業支援空き店舗等活用事業や地域交流センター等の利用促進に取り組みたい。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

【十和田市中心市街地活性化に関する市民アンケート調査】

調査方法：郵送配布・回収

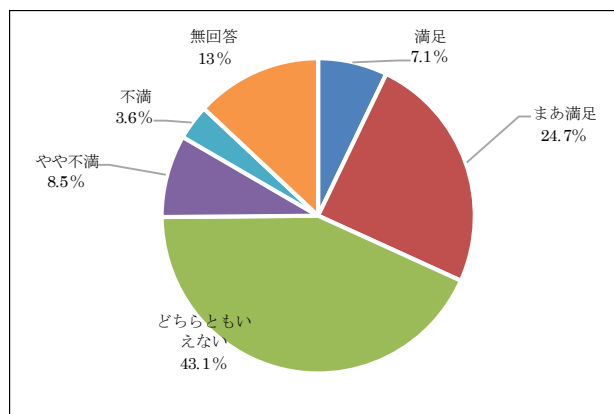
調査対象：16歳以上の市民から無作為抽出（1,500票）

サンプル数：562票（回収率37.4%）

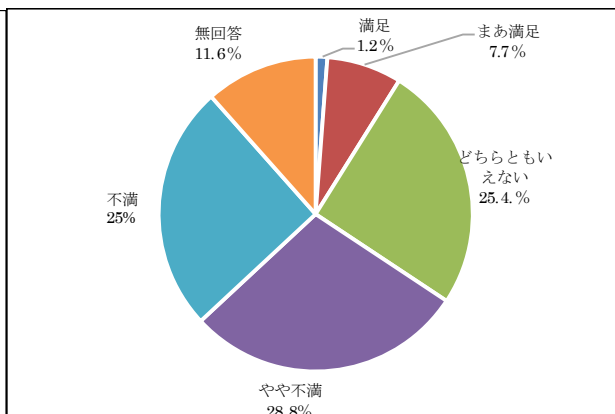
調査日：平成26年10月24日～11月10日

平成26年

【芸術・歴史・文化と触れ合える環境づくり】



【買い物環境の満足度と利便性】



【第2次十和田市総合計画後期基本計画策定に係る市民アンケート】

調査方法：郵送配布・回収、インターネットによる回答受付

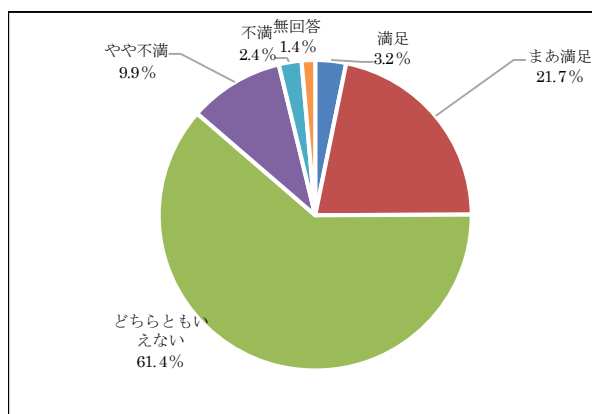
調査対象：16歳以上の市民から年齢ごとに無作為抽出（2,000票）

サンプル数：759票（回収率38%）

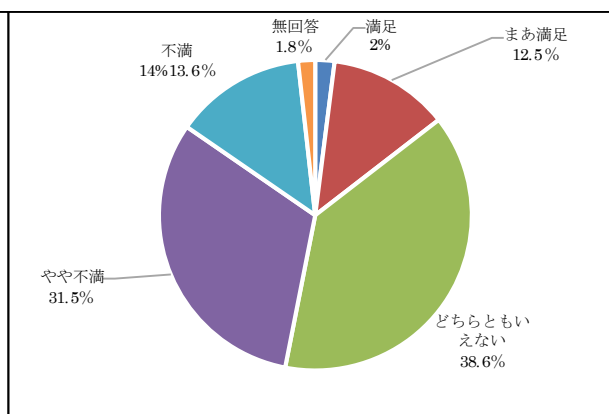
調査日：令和3年9月17日～10月8日

令和 3 年

【文化の振興】



【商業・サービスの振興】



計画策定時の2つの基本方針にそって、計画44頁記載の「十和田市中心市街地活性化に関する市民アンケート調査（以下、計画策定時調査）」の中心市街地の満足度（市民全体）と計画策定後の「第2次十和田市総合計画後期基本計画策定に係る市民アンケート（以下、令和3年調査）」の市政全般に関する満足度を比較して市民の意識の変化を見た。中心市街地活性化計画の基本方針1の「芸術・歴史・文化が薫り心豊かにくつろげるまちづくり」の効果を述べると、計画策定時調査の「芸術・歴史・文化と触れ合える環境づくり」の項目は「満足」「やや満足」と回答したのは、31.8%だったが、令和3年調査の「文化の振興」の項目の結果は、24.9%となり減少した。

また、基本方針2の「安心快適に充実した暮らしができる住みよいまちづくり」についての効果は、計画策定時調査の「買い物環境の満足度と利便性」の項目は、「満足」「やや満足」と回答したのは8.9%であり、令和3年調査の「商業・サービス業の振興」の項目の結果は、14.5%となり増加した。

上記の様に満足度は一方で下がり、一方が上がっていることや、大幅な満足度の増減が現れなかった且つ、上記2つの基本方針に沿った比較において、2つとも「どちらともいえない」が増えていることから、計画策定時と変化なしと捉える。

6. 今後の取組

本計画に位置付けた各種事業の実施により、生まれた新たな賑わいや歩行者の回遊性を市全体で高めていく事が重要である。

空き地・空き店舗は目標値には届かなかったが、近年新規出店者の増加がみられており、新型コロナウイルス感染症の影響がありながらも、官民連携による創業支援は着実に成果を上げており、引き続き事業を継続して取り組んでいく。

残された課題として、本計画の取り組みにより、一定の中心市街地の活性化が進んだものの、計画期間後もにぎわい再生に向けた取り組みを実施していく必要がある。

今後も少子高齢化への対応や、コンパクトなまちづくりに向けて継続的に取り組むべきと考える。

中心市街地活性化基本計画は終了するが、引き続き官民一体となって中心市街地活性化に取り組んでいきたい。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し							
目標	目標指標	基準値	目標値	基準値から目標値までの幅の 8 割ライン	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
芸術・歴史・文化を活かした、魅力的な市街地の形成	歩行者・自転車通行量	4,651 人/日 (H30)	5,604 人/日 (R5)	5,413 人/日	3,475 人/日	R5.8	<u>c</u>
歩いて暮らせる安心・快適な生活環境と、利便性の高い市街地の形成	社会増減数	-25 人 (H25～H29 合計)	125 人 (R 元～R5 合計)	95 人 (R 元～R5 合計)	-47 人 (R 元～R5 合計)	R6.3	<u>c</u>
	空き地・空き店舗数	52 か所 (H29)	39 か所 (R5)	42 か所	53 か所	R6.2	<u>c</u>

< 達成状況の分類 >

A : 目標達成、B1 : 概ね目標達成 (基準値から目標値までの幅の 8 割ラインを超えている)、B2 : 基準値より改善 (基準値から目標値までの幅の 8 割ラインには及ばない)、C : 基準値に及ばない

※上記について、関連する事業等が予定どおり進捗・完了しなかった場合は、小文字にして下さい。(注 : 小文字の a、b1、b2、c は下線を引いて下さい)

2. 目標指標ごとのフォローアップ結果							
「(1) 歩行者・自転車通行量」 ※目標設定の考え方は認定基本計画 P. 61～P. 63 参照							
●調査結果の推移							

(人/日)

歩行者・自転車通行量

年	(人/日)
H30	4,651 (基準値)
R元	4,873
R2	4,156
R3	3,309
R4	4,039
R5	3,475
R5	5,604 (目標値)

年	(人/日)
H30	4,651 (基準値)
R元	4,873
R2	4,156
R3	3,309
R4	4,039
R5	3,475
R5	5,604 (目標値)

※調査方法 : 平日および休日の各 1 日の 9 : 30～18 : 00 の通行量を観測

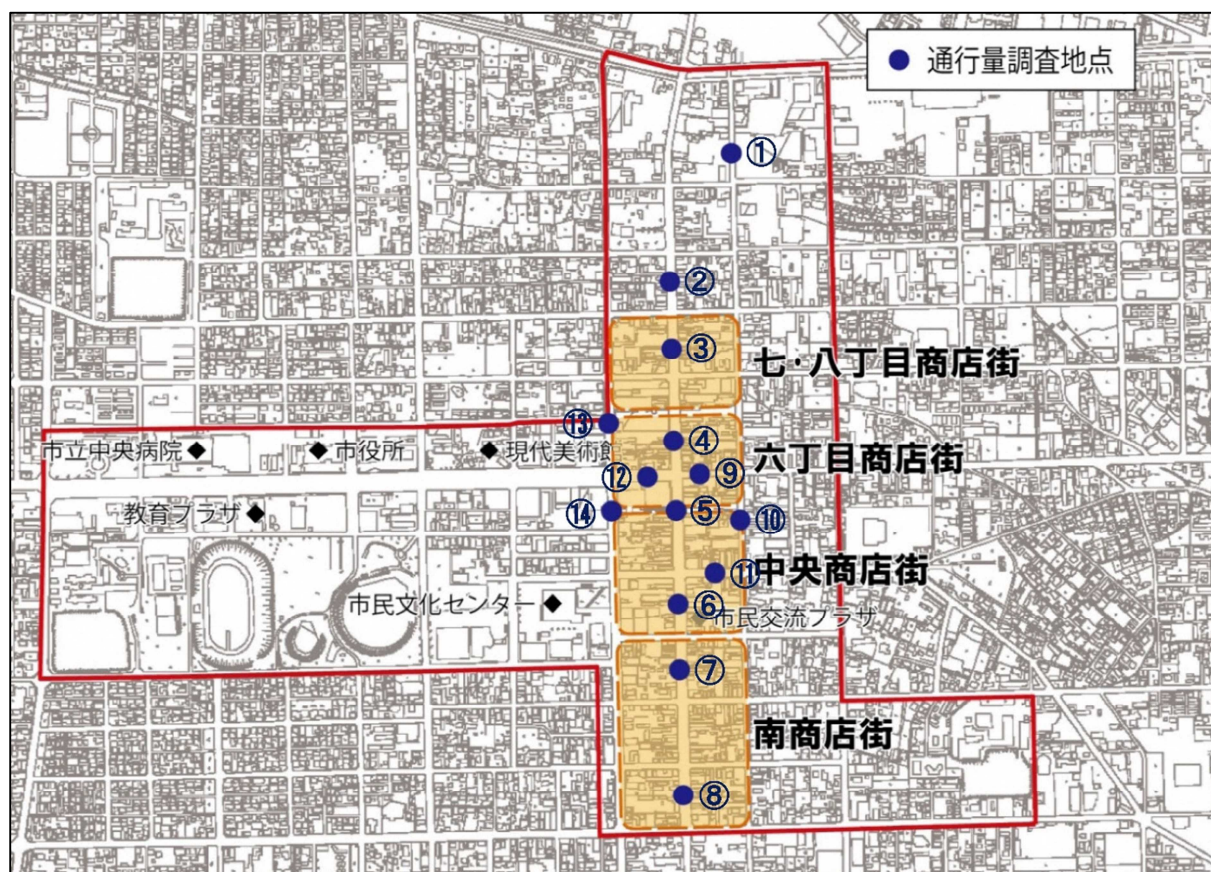
※調査日が悪天候の場合に備えて事前に予備日を設定

※調査月 : 各年 8 月

※調査主体 : 十和田市

※調査対象 : 中心市街地エリア内 14 地点における歩行者および自転車の通行量

※算出方法 : 各日の通行量を平均して算出



<各地点の通行量>

(単位：人)

	H30(計画前)		R 元(1 年目)		R2(2 年目)		R3(3 年目)		R4(4 年目)		R5(5 年目)	
	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日
地点①	127	153	198	309	158	292	153	205	165	182	58	96
地点②	173	195	227	391	165	200	194	203	98	130	142	182
地点③	170	224	146	209	143	231	97	127	128	145	97	161
地点④	343	403	330	443	263	332	222	211	341	417	259	256
地点⑤	286	530	361	772	193	382	184	190	207	259	169	229
地点⑥	449	495	344	587	310	399	232	288	398	451	304	427
地点⑦	237	325	185	312	129	222	160	164	156	207	159	228
地点⑧	234	320	186	275	138	246	114	154	115	128	87	101
地点⑨	225	251	107	204	102	190	128	167	182	221	387	224
地点⑩	105	93	85	131	144	271	144	277	173	192	120	209
地点⑪	229	295	166	300	148	213	93	137	155	126	70	98
地点⑫	471	1069	480	1110	399	1247	352	1114	501	1169	271	512
地点⑬	187	411	177	371	256	462	148	270	246	451	249	700
地点⑭	508	793	386	954	298	778	279	610	423	712	336	819
合計	3744	5557	3378	6368	2846	5465	2500	4117	3288	4790	2708	4242
平均	4651		4873		4156		3309		4039		3475	

＜分析内容＞

「歩行者・自転車通行量」について、最終年度の調査では3,475人/日となり、基準値、目標値ともに下回る結果となった。

目標を達成できなかった要因として、新型コロナウイルス感染症に伴う外出自粛の影響が尾を引いたと考えられる。新型コロナウイルス感染症については、令和5年度には、収束に向かい始めているとの見方もあるが、これまでのイベント自粛や行動制限等により、外出やイベントを控える動きがあったことや、計画策定当初に予定していた、「高次・複合施設整備事業」等の完了によって通行量の増を見込んでいたが、事業が完了せず想定していた効果が発現しなかったことがあげられる。

全体として実績値の低下がみられる一方で、当計画で建設した「地域交流センター」や「まちなか交通広場」の周辺では従前値より交通量が伸びていることから、中心市街地の魅力ある拠点としてまちのにぎわいに寄与したと考える。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①高次・複合都市施設整備事業（株大阪）

事業実施期間	令和元年度～令和3年度【未】
事業概要	交通拠点施設に隣接して、商業・医療・福祉・居住などの複合的な機能を有し、各種イベントに活用可能な多目的スペースを備えた高次・複合都市施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	支援措置なし
事業目標値・最新値・及び達成状況	【事業目標値】211.4人/日 【最新値】0人/日 【達成状況】未達成
達成した（できなかった）理由	これまで建設に向けて検討してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により今後の経済が不透明な状況から、当初計画の事業展開は非常に困難な状況になり、実施に至らなかった。
計画終了後状況及び事業効果	事業未完了のため、事業効果は発現されていない。
事業の今後について	民間事業者において、別な形で敷地の利活用が進んだため、今後の実施検討は取り止める。

②（仮称）地域交流センター整備事業（十和田市）

事業実施期間	平成29年度～令和4年度【済】 [認定基本計画：平成29年度～令和3年度]
事業概要	十和田市現代美術館と連携した企画展の開催や、市民のアー

	ト活動のサポート等を通じた地域交流の拠点となる多用途施設を整備する。
国の支援措置名 及び支援期間	都市構造再編集中支援事業補助金（十和田市中心市街地地区） （国土交通省）／令和元年度～令和３年度
事業目標値・最新 値・及び達成状況	【事業目標値】 7.4 人/日 【最新値】 2.5 人/日 施設は令和４年９月に供用開始している
達成した（できな かった）理由	地域交流センター整備事業により地域の交流の拠点となる多 用途施設が整備され利用促進が図られた。
計画終了後状況 及び事業効果	歩行者・交通量調査では、地域交流センターの周辺は増加して おり中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後につ いて	利用件数が増加傾向にあることから、引続き、安全・安心な施 設管理と良質なサービスの提供を続けて、利用促進を図る。

③市営住宅整備事業（十和田市）

事業実施期間	令和元年度～令和５年度【実施中】
事業概要	中心市街地内の公的ストック（市民東プール跡地）及び事業者 が提案する立地適正化計画：居住誘導区域内の民有地におい て、PFI（民間資金等活用事業）を活用して市営住宅を集約・ 整備する。
国の支援措置名 及び支援期間	社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業（公営住 宅整備事業等））（国土交通省）／令和元年度～令和５年度
事業目標値・最新 値・及び達成状況	【事業目標値】 13.0 人/日 【最新値】 0 人/日 【達成状況】 未達成 進捗率 31%（令和６年３月末現在）
達成した（できな かった）理由	当事業は、計画期間内に竣工しなかった。
計画終了後状況 及び事業効果	地域住民説明会後近隣住民から規模縮小などの嘆願書が提出 され計画変更による再設計に時間を要したことから事業未完 了のため、事業効果は発現されていない。
事業の今後につ いて	現在、令和６年１１月竣工に向けて建設工事中であり、完成後 には歩行者・自転車通行量の効果が期待される。

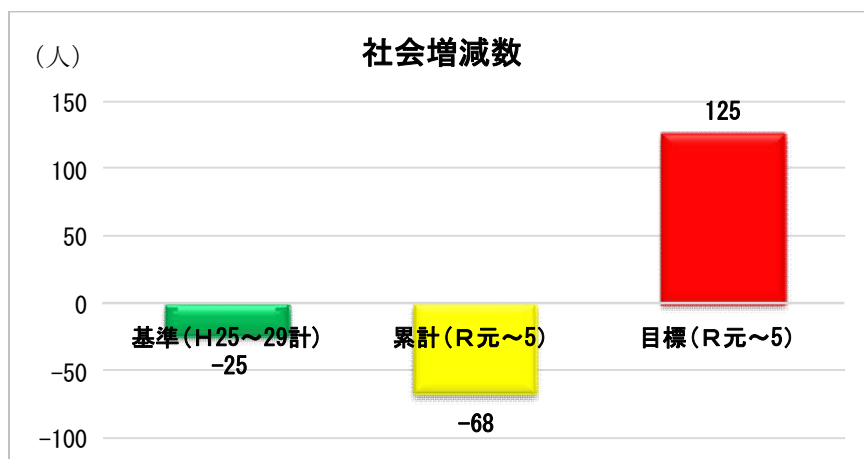
●今後の対策

「高次・複合都市施設整備事業」が未実施であったため計画当初に見込んでいた効果
が得られていないが、主要事業の一つである地域交流センター整備事業が完了し供用開
始となり、通行量の増加の期待は高まったが、新型コロナウイルス感染症の影響が尾を

引き歩行者・自転車通行量の減少が見られた。今後は、新たに整備した地域交流センター等の利用促進を図り、まちなかの回遊性を高めながら中心市街地の賑わいの創出を図っていく。

「(2) 社会増減数」 ※目標設定の考え方は認定基本計画 P. 64～P. 65 参照

●調査結果の推移



年	(人)
基準	－25 (H25～H29計)
累計	－68 (R元～R5計)
目標	125 (R元～R5計)

※調査方法： 住民基本台帳データより把握

※調査

日： 4月1日～翌年3月末日まで

※調査主体： 十和田市

※調査対象： 中心市街地エリアに含まれる街区の各年の3月末日の人口、4月1日から翌年3月末日までの自然増減数（出生－死亡）

※算出方法： 1年間の人口増減数から自然増減数を差し引くことで社会増減数を算出

※人口動態データからは十和田市内における区域内外への転居（転入・転出）が把握できないため、全体増減数から自然増減数を差し引いたものを社会増減数として取り扱う。

<分析内容>

目標達成に至らなかった要因として、市全体の人口が減少する中において市営住宅整備事業をはじめとする各事業の推進によって生まれる居住地としての魅力向上により、居住促進・人口増加を図ることが重要であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業完了に間に合わなかったことなどから自然減・社会減が上回ったことが考えられます。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①市営住宅整備事業（十和田市）

事業実施期間	令和元年度～令和５年度【実施中】
事業概要	中心市街地内の公的ストック（市民東プール跡地）及び事業者が提案する立地適正化計画：居住誘導区域内の民有地において、PFI（民間資金等活用事業）を活用して市営住宅を集約・整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業（公営住宅整備事業等））（国土交通省）／令和元年度～令和５年度
事業目標値・最新値・及び達成状況	【事業目標値】120.75人 【最新値】0人 【達成状況】未達成 進捗率31%（令和6年3月末現在）
達成した（できなかった）理由	地域住民向け説明会後、近隣住民からの規模縮小などの嘆願書が提出され計画変更による再設計に時間を要した。
計画終了後状況及び事業効果	事業未完了のため、事業効果は発現されていない。
事業の今後について	現在、令和6年11月竣工に向けて建設工事中であり、完成後には35世帯の増加が見込まれる

②高次・複合都市施設整備事業（株大阪）

事業実施期間	令和元年度～令和３年度【未】
事業概要	交通拠点施設に隣接して、商業・医療・福祉・居住などの複合的な機能を有し、各種イベントに活用可能な多目的スペースを備えた高次・複合都市施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	支援措置なし
事業目標値・最新値・及び達成状況	【事業目標値】24人 【最新値】0人 【達成状況】未達成
達成した（できなかった）理由	これまで建設に向けて検討してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により今後の経済が不透明な状況から、当初計画の事業展開は非常に困難な状況になり、実施に至らなかった。
計画終了後状況及び事業効果	事業未完了のため、事業効果は発現されていない。
事業の今後について	民間事業者において、別な形で敷地の利活用が進んだため、今後の実施検討は取り止める。

③アート住宅立地促進事業（㈱まちづくり十和田・十和田商工会議所）

事業実施期間	令和元年度～令和３年度【未】
事業概要	現代アートを軸としたまちづくりに資する、デザイン性の高い戸建て住宅の立地促進に向けた設計コンペイベントを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 令和２年度～令和３年度
事業目標値・最新値・及び達成状況	【事業目標値】４．８人 【最新値】０人 【達成状況】未達成
達成した（できなかった）理由	専門人材の助言・指導を受けて実施していく予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響もあり、予算の確保が難しかったことから、実施に至っていない。
計画終了後状況及び事業効果	事業未完了のため、事業効果は発現されていない。
事業の今後について	事業実施主体と協議を行うとともに、支援措置担当部局と連携を図り、速やかな事業着手を目指す。

●今後の対策

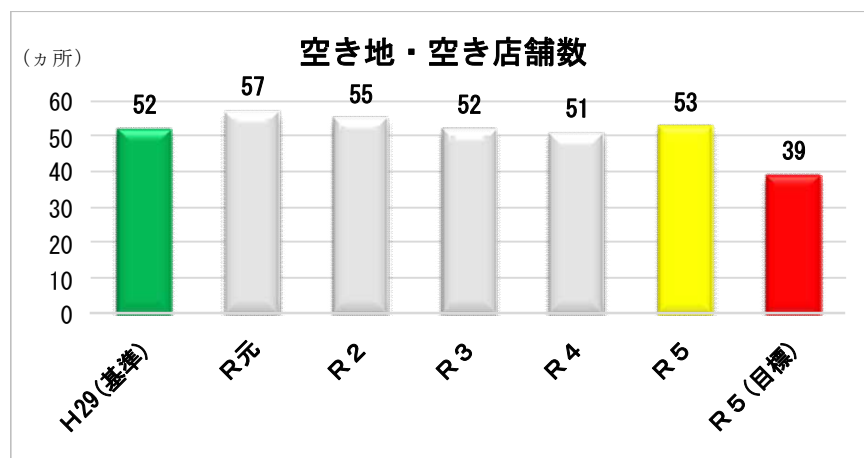
目標達成に係る事業のうち「高次・複合都市施設整備事業」が新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施に至らなかったことによる目標値への影響が大きかったことは否めない。

計画に盛り込まれていなかったが、令和５年度は移住定住住宅取得支援事業や、移住定住引っ越し支援事業を推進し、若年子育て世代の定住を促し中心市街地の人口減少に取り組む、１世帯の定住があった。

また、計画期間に完成に至らなかったが、市営住宅の建設により、居住人口の減少率の緩和する効果があるものとする。

「(3) 空き地・空き店舗数」 ※目標設定の考え方は認定基本計画 P. 66～P. 67 参照

●調査結果の推移



年	(カ所)
H29	52 (基準値)
R元	57
R2	55
R3	52
R4	51
R5	53
R5	39 (目標値)

※調査方法： 商店街における空き地・空き店舗を現地調査により把握

※調査月： 各年1月

※調査主体： 十和田市

※調査対象： 南商店街振興組合、中央商店街振興組合、六丁目商店街振興組合、七・八丁目商店街振興組合

※算出方法： 空き地数・空き店舗数を合計して算出

<分析内容>

中心市街地の空き地・空き店舗数は、令和元年からの新型コロナウイルス感染症の拡大の影響や物価高騰により創業に向けた機運が上がらなかったことや、閉店後の店舗解体や閉店による専用駐車場の空き地化により空き店舗や空き地が増加傾向となった。

本計画において、地域交流センターの整備や創業支援等空き店舗等活用事業により創業件数は近年堅実に増加したものの、目標値には届かなかった。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①高次・複合都市施設整備事業（株大阪）

事業実施期間	令和元年度～令和3年度【未】
事業概要	交通拠点施設に隣接して、商業・医療・福祉・居住などの複合的な機能を有し、各種イベントに活用可能な多目的スペースを備えた高次・複合都市施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	支援措置なし
事業目標値・最新値・及び達成状況	【事業目標値】 1件（空き地）解消 【最新値】 0件 【達成状況】 未達成
達成した(できな	これまでまで建設に向けて検討してきたが、新型コロナウイ

かった) 理由	ルス感染症の影響により今後の経済が不透明な状況から、当初計画の事業展開は非常に困難な状況になり、実施に至らなかった。
計画終了後状況及び事業効果	事業未完了のため、事業効果は発現されていない。 しかしながら、別な形で敷地の利活用について進み、空き地は解消された。
事業の今後について	民間事業者において、別な形で敷地の利活用が進んだため、今後の実施検討は取り止める。

②地域交流センター整備事業（十和田市）

事業実施期間	平成 29 年度～令和 4 年度【実施済】 [認定基本計画：平成 29 年度～令和 3 年度]
事業概要	十和田市現代美術館と連携した企画展の開催や、市民のアート活動のサポート等を通じた地域交流の拠点となる多用途施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業補助金（十和田市中心市街地地区）（国土交通省）／令和元年度～令和 3 年度
事業目標値・最新値・及び達成状況	【事業目標値】 1 件 【最新値】 1 件 【達成状況】 達成
達成した(できなかった) 理由	地域交流センター整備事業により地域の交流の拠点となる多用途施設が整備され利用促進が図られた。
計画終了後状況及び事業効果	空き家が解消され、中心市街地のシンボルの施設として賑わいに寄与した。
事業の今後について	用件数が増加傾向にあることから、引続き、安全・安心な施設管理と良質なサービスの提供を続けて、利用促進を図る。

③創業支援等空き店舗等活用事業（十和田市）

事業実施期間	平成 27 年度～令和 5 年度【実施中】
事業概要	空き店舗・空き事務所・空き住宅を活用して事業（小売業・サービス業・コミュニティビジネスなど）を開始する場合に、改修等に係る経費の一部を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値・及び達成状況	【事業目標値】 10 件 【最新値】 16 件 【達成状況】 達成
達成した(できなかった) 理由	当事業の周知を図り、創業に向けた支援等を継続して行ってきたことにより新規創業環境の形成を図る事ができた。

計画終了後状況及び事業効果	新型コロナウイルス感染症の影響が薄れてきており、若い創業者やUターン創業者等により出店され、中心市街地での新たな魅力が創出された。
事業の今後について	事業は順調に活用されており、今後も継続して創業支援制度事業を推進し、関係機関と連携し新規創業を促して空き店舗の解消に努める。

④商店街マネジメント事業（十和田市商店街連合会・十和田市中央商店街）

事業実施期間	令和5年度【未】
事業概要	商店街の空き地や空き店舗のマネジメントを行い、最寄品を取り扱う店舗の誘致や、アトリエ・シェアハウスなどとしての再整備を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	地域・まちなか商業活性化支援事業（経済産業省） 令和5年度
事業目標値・最新値・及び達成状況	【事業目標値】 1件 【最新値】 0件 【達成状況】 未達成
達成した（できなかった）理由	本事業により、中心市街地を訪れ商店街内での消費活動を促進することを目的に空き地や空き店舗を活用した新規商業者の参入機会の創出につながるコンテンツの誘致や発掘に取り組む予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響や物価高騰等の社会情勢の影響から経営難により、整備の実施に至っていない。
計画終了後状況及び事業効果	事業未完了のため、事業効果は発現されていない。
事業の今後について	社会情勢等により、整備の実施については再検討していく。

●今後の対策

目標達成にかかる事業のうち高次・複合都市施設整備事業と商店街マネジメント事業が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により事業実施に至らなかったが、創業支援等空き店舗等活用事業により空き店舗の活用の一層の推進に努めたことにより、令和4年度は3件、令和5年度は7件と堅実に増加しており当事業の効果は見られている。

今後も継続して空き店舗解消に向けて事業の周知等に努め、創業ムードの醸成を図り、賑わいの創出や商店街への出店を促進することで、更なる改善が図れると考えている。